臨床看護師の看護研究における困難感の要因の探索

大網白里市立国保大網病院
がん化学療法看護認定看護師　外来副看護師長　齋藤砂織

研究背景・目的

日本看護協会の看護者の倫理要綱の 11 項目には、「看護者は、研究や実践を通して、専門知識・技術の創造と開発に努め、看護の発展に寄与する」と記されており、これに基づいて、多くの施設で臨床看護師が看護研究に取り組むことを課している。当院でも一年間の期限で各部署一演題に取り組み、年度末に院内で研究発表会を行っている。しかし、自ら研究に取り組むことを希望する看護師は少なく、現状として当番制で行う傾向が強い。そして、その研究に取り組む過程において、研究を担当する臨床看護師から看護研究への不満や悩みの声を聞くことも多い。2015 年から、近隣の大学教授に年数回に渡り研究指導を受けているが、施設内での研究環境についての検討は不十分ではないかと感じる。本研究では、当院の臨床看護師が看護研究に感じる困難感を明らかにし、困難を緩和するためどのような支援が必要であるかを明確にすることで、看護研究に取り組みやすい環境の整備を検討していくことである。

方法

１. 対象：看護管理者を除く臨床看護師

２. 期間：倫理審査委員会承認後から 2021 年度内

３. アンケート調査：

アンケート内容

1）先行研究のアンケート調査を参考にした質問項目を改編し、アンケート用紙を作成した。

<u>基本属性</u>

①年代②性別③経験年数④看護研究経験の有無⑤最終学歴

<u>看護研究を行うにあたり困難と感じる項目　12 項目</u>

2）対象者に配布、回収後、解析を行い、臨研究において臨床看護師が困難感を感じる因子を抽出する。

４. 倫理的配慮：

調査対象者には、回答により不利益を被ることはないこと、同意を撤回したい場合はいつでもできることを、書面をもって同意を得る。同意を得て回収したアンケートは、書面・USB で保管し院内から持ち出さず、研究終了後速やかに破棄を行う。